

令和6年10月29日(火曜日)参加数:60名  
 主催:国立教育政策研究所社会教育実践研究センター  
 全国生涯学習・社会教育センター等協議会

生涯学習センター等の相互の連携協力を推進するため、全国の生涯学習センター等の職員等が集い、ライブ配信にて当面する課題について研究協議等を行った。

テーマ「共に学び支え合う生涯学習・社会教育に向けたこれからの生涯学習センター等の取組」

## 基調講義

### 「ウェルビーイングの実現と共に学び支え合う

### 生涯学習・社会教育とは」

[講師] 大分大学大学院 教授 清國 祐二



清國講師

「第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」で示された内容から、「ウェルビーイングの実現と共に学び支え合う生涯学習・社会教育」における生涯学習センター等の役割についての話があった。

#### 参加者の声

- ・ウェルビーイングと生涯教育・社会教育の考え方について改めて知ることができた。今後は講義内容を活動のベースにしながら、自分なりの考えをさらに深めていきたい。
- ・生涯学習センターの役割や求められていることは変遷しているので、アンテナを高くし、社会的な要望を整理して、事業計画をしていかなければいけないと痛感した。
- ・時代背景から生涯学習センター設置の意義を知ることができた。また生涯学習社会への移行において、学校教育との連携がまだまだ不十分なので、多様な学習をつなぐ要として努めていきたい。

## シンポジウム

### 「共に学び支え合う生涯学習・社会教育に取り組む

### 生涯学習センター等の実際」

[コーディネーター]  
 大分大学教育マネジメント機構基盤教育センター

教授 岡田 正彦

[登壇者]  
 九州共立大学 地域連携推進センター

所長 山田 明

群馬県生涯学習センター

学習振興係長 根岸 直之

札幌市生涯学習センター

事業課調整担当係長 丸山 聡子



3本の事例紹介の前に、岡田コーディネーターから、発表を聴く視点についての説明があった。その中で、それぞれの発表要旨に触れつつ、3つの視点について提案があった。

- 1 事例における取組の着眼点や課題解決、連携のあり方など成果の分析
- 2 自身が所属するセンターの取組に引きつけてシミュレーションする
- 3 メタ分析を行う



山田講師

山田講師からは、九州共立大学地域連携センターによる包括的地域連携推進協定と地域連携事業プランについて説明があり、地域連携推進センターを基盤とした学生への学びの提供と地域貢献に向けた課題と可能性について発表があった。

#### 参加者の声

- ・地域連携協定を通じて地域のニーズを把握できることがわかった。そして学生の自己実現を目指したプログラムを提供し、最終的に社会貢献につながる取組において、システム作りの大切さを実感した。
- ・大学を核に、地域や学生の想いをうまくコーディネートされている点が勉強になった。実態を踏まえた上でプログラムが展開されている様子がよくわかった。
- ・学生がボランティアに参加するための様々な工夫やアイデアのほか、「自分のためのボランティア活動であり、自己実現の機会として様々なメリットがある」ことを学生に伝えるといった点が大変参考になった。



根岸講師

根岸講師からは、「キッズルームぐんまちゃん」が群馬県生涯学習センターに設置された経緯とともに、そこで活動する子育て支援ボランティア事業における学び合い・支え合いと、それを支援するセンターの取組について発表があった。

### 参加者の声

- ・「家庭教育支援者養成講座」の受講で終わるのではなく、その学習成果を子育て世代へ還元し、やりがいを得ることができるという循環的なシステムが素晴らしいと思った。
- ・根岸講師の「目的をすり合わせる」という考えに共感した。家庭教育支援のボランティアさんの運用の仕方、養成講座の内容など興味深かった。
- ・「量より質」という言葉が印象に残った。業務においては申込人数、開講件数など量を求められることも多いが、信念をもって惑わされずに進むことも大事だと改めて感じさせられた。



丸山講師

丸山講師からは、札幌市生涯学習センターで活動する生涯学習ボランティア(ちえりあ学習ボランティア)におけるICTの積極的活用の事例を通じた、ICT活用の利点と課題ならびにボランティアを支援するセンターの取組についての発表があった。

### 参加者の声

- ・「楽しい」ことを入口に、そこから学びを深化させているところが勉強になった。その過程では、参加者に対して、職員の方の声掛けやサポートという伴走支援がとても重要であることを実感した。
- ・生涯学習ボランティア育成事業における、センターで学ぶ立場から学びを作っていく側が変わっていく取組が、「共に学び支え合う」生涯学習の推進につながっていることがわかった。
- ・ICTの活用を通して見えてきた利点と課題も共感できるものばかりであり、学ぶ人が誰なのか対象をきちんと見極め、学ぶ方々に適した方法を選びながら事業を展開していくことの大切さを学んだ。



岡田コーディネーター

岡田氏からは、3つの事例発表を踏まえながら、ボランティアとの関わり方、他団体と連携・協働する上で心がけていること等について問いかけがあり、登壇者との意見交換が行われた。まとめとして、魅力的な取組の情報共有を通じて、センター同士の連携を促進させるとともに、センターと行政、地域との関係の作り方について共有できる機会の創出を提示された。

### 参加者の声

- ・質問が明確で、各事例発表者からの意見の多様性・立場の違いなどの差が出ていて理解が深まった。よりよい目的のために、連携の種を見つけること、アンテナを高くもつことの大事さを感じた。
- ・事例を検討する視点を明示していただき、意識しながら発表を聞くことができた。自センターの取組に置き換えて考える、汎用的に活用するための分析は、今後の取組にも生かしていきたい。
- ・「自分のセンターで実施するならば、どうするか」など、イメージを促していただいたおかげで、より学びが深まり、有意義な時間となった。

## グループ協議

## 「生涯学習センター等の住民の学びと活動の拠点としての取組」

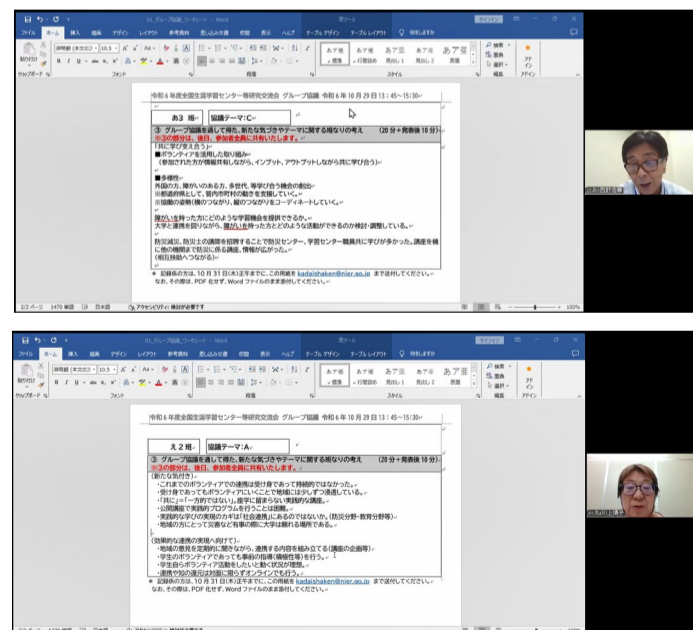
社会教育実践研究センター職員

### 【協議テーマ】

- A 「共に学び支え合う」に繋げるための仕組みづくりとは
- B 「共に学び支え合う」を支える拠点となるための取組とは
- C 「共に学び支え合う」を紡ぐ広報と学習情報提供のあり方とは
- D 「共に学び支え合う」を創出するための連携のあり方とは

今回は都道府県、指定都市、大学といった参加者の所属別で班を編成し、各班、協議テーマから一つを選択し、グループ協議を進めた。

グループ協議用のワークシートを画面上に共有しながら、「協議テーマについての現状や課題または関心を寄せる理由について」、「協議テーマについての考えやアイデア、取組方策、理想の姿」、「グループ協議を通して得た、新たな気づきや協議テーマに関する班なりの考え」等、活発な意見交流・情報交換を行った。その後、班なりの考えを発表し、情報共有を行った。



協議内容の発表の様子

### 参加者の声

- ・参加者の皆さんと「共に学び支え合う」というテーマを達成するために何が必要であるか、改めて考えるきっかけをいただくことができ、大変有意義な意見交換ができた。
- ・協議テーマCについて、最初はインターネットやSNSを使っていかに効率よく幅広く広報するかということばかり考えていたが、話し合いを通して、「学習情報を届けるのは人である」という大切なことに気づいた。
- ・他県の生涯学習センターの実態を知ることができてよかった。同じような課題を抱え、同じように試行錯誤しながら生涯学習・社会教育を推進されている様子を聞いて、ヒントや学びをいただいた。